

第122回「言葉の院外処方箋」

チャフル (Cheerful) な態度 ～「心を広く」&「眼界を広く」～

2022年8月12日 午前中「毎日毎日読む本が、何の役にも立たないようでも、知らぬ間に 地下水のように心の底を潤すものになるのである。」（三浦綾子 1922-1999）の『わが青春に出会った本』（主婦の友社、1982年）を拝読した。まさに、「背骨をなす本」、「具体的知識集」である。今年は、新渡戸稲造（1862-1933）生誕160周年と共に、三浦綾子生誕100周年でもある。筆者は、若き日に『塩狩峠』（新潮社1968年）&『道ありき』（主婦の友社、1969年）を拝見したものである。

2022年8月12日の午後は、文京区社会福祉協議会に赴いた。安藤彰啓 事務局長、浦田愛 係長、平石進 係長との大変有意義な面談の時が与えられた。【社会福祉協議会 (Social Welfare Council) とは、地域福祉の推進を図ることを目的とする社会福祉法人である。—— 誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域社会」づくりを推進することを使命とする。】と謳われている。2022年11月8日『居場所 ～ 寄り添う ～』、11月18日【居場所 ～ 『「First Contact Team」の時代的要請』～】の講演会が企画される予感がする。

「居場所」によっては、同じ人間でも、雰囲気、表情が変わる。これが「自発的覚醒」の瞬間とも言えよう。まさに、「チャフル (Cheerful) な態度、顔付きを以て人に接する」という『新渡戸稲造(1862-1933)の教育精神』（矢内原忠雄;1893-1961）の実践でもある。【「心を広くもて」、「精神的レベルを高めよう」、「教養を深くしよう」、「眼界を広くしよう」という、「新渡戸稲造の努力」】を静思する今日この頃である。「耐えることのできないような 試練は合わせるよなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」（コリントI 10章13節）を痛感する。2022年8月13日は、『東村山がん哲学外来メデイカル・カフェ8周年』（東村山市ステーション「サンパネル」に於いて）での特別講演『種を蒔き、実を刈り、開拓！』に赴く。